

春日台だより 第12号

令和6年5月1日

綾瀬市立春日台中学校

校長 吉田 勉

～学校教育目標～

すすんで学ぶ人 精神と身体こころ からだの健康な人 責任を重んじる人 心豊かであたたかい人

5月の朝会での校長先生のお話を掲載します。

「挨拶が100%」を目指そう!!



皆さん、お早うございます。

令和6年度の学校生活が始まって、1か月が過ぎました。新しい学年、新しいクラスでの学校生活を、皆さんは自分なりに充実するように過ごせていますか？

きょうは、「『挨拶が100%』を目指そう!!」というテーマで話をします。

4月5日の始業式での私からの2、3年生への話と、入学式での1年生への話は同じ内容にしました。それは、令和6年度の一年間、春日台中学校の生徒全員に意識して過ごしてほしい内容だったからです。

その話は、「相手に対して思いやりの気持ちをもって接するようにしよう」と思っている生徒の割合は「94.3%」と高いけれども、私は「94.3%で良いのか?」と思っているという内容でした。

「思う」ことは誰にでもできることだと、私は考えています。だから、「相手に対して思いやりの気持ちをもって接するようにしよう」と思っている生徒の割合が、「100%」になったら良いなと願っています。

始業式や入学式の話では、そうなるために心掛けてほしいこととして、相手とのコミュニケーションの基盤である挨拶を意識して、春日台中学校を挨拶のあふれる学校にしていきたいということをお伝えしました。

この1か月、朝の昇降口で、とても良いなと感じる挨拶が増えてきました。朝だけでなく、休み時間や放課後にも、大きな声で挨拶をしてくれたり微笑みながら挨拶をしてくれたりする人が、多くなってきたように感じています。

私が授業中に廊下を歩いているとき、私と目が合うと会釈をしてくれる人もいます。そうした時に私は、挨拶は、相手との良い関係を築くために、不可欠のものだと思えるのです。

「相手に対して思いやりの気持ちをもって接するようにしよう」と思う生徒の割合が「100%」になるように、相手との良い関係を築く基盤である挨拶を意識して、「挨拶が100%」を合言葉に、挨拶のあふれる学校づくりを皆で目指していきましょう。